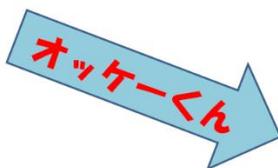


第2回ソフィア発見講座【報告】

自然って楽しい!? ～桶ヶ谷沼のトンボの世界～

オッキーくんとは…

令和3年3月桶ヶ谷沼ビジターセンター展で誕生したキャラクター。子供から大人までの様々な質問に「オッキー」と答えられるようになりたい思いと桶ヶ谷沼の「オケ」に掛けて名付けた。



現在
YouTube出演1回
ラジオ出演7回
広報いわた2回
テレビ出演1回
新聞掲載3回

広報活動を頑張ってます

ベッコウトンボの保護活動

現在の羽化は、生け簀と網掛けコンテナからがほとんどで沼からの羽化はない

数を増やすことで、将来的にはかつてのように沼本体から多くのベッコウトンボが自然羽化するようにしたい

そして

最終的には絶滅の危機からベッコウトンボを守る

絶滅した種は戻ってきません



参加者の感想から

- ・童謡からフォークまで懐かしい歌の中からの出題がとても楽しかった。
- ・赤トンボだと思っていたのが、実はウスバキトンボで、アカネ属ではないことに驚いた。
- ・ベッコウトンボを守るために、いけすを作ったり、ネットをかけたり大変なことを知った。
- ・これからは冬鳥が楽しみな季節と聞いて、子供を連れて行ってみようと思った。



ヤンマとトンボの違いは何？

答えは、大きさの違いですが、基準は曖昧です。(別紙参照)

ヤンマとトンボの違いを調べてみました。

トンボ目（トンボの仲間）は大きく分けて均翅亜目と不均翅亜目に分かれ

均翅亜目（俗にイトトンボと言われているトンボの仲間）の特長は①複眼が小さい②腹部が一様に細長い③前翅と後翅はほぼ同じ形、です

*均翅亜目ほとんどはとまる時に4枚の翅を重ねていますが、一部は翅を広げたままとまるものもあります。

均翅亜目には以下の7種類の仲間がいます。

アオイトトンボ科、カワトンボ科、ヤマトイトトンボ科、ハナダカトンボ科、ミナミカワトンボ科、モノサシトンボ科、イトトンボ科

これらを大きさ別に分けると（その科の中でも大きさは様々なためダブリアリ）

小型：イトトンボ科、モノサシトンボ科、アオイトトンボ科、ヤマトイトトンボ科、
ハナダカイトトンボ科 * 4 cm未満

中型：イトトンボ科、モノサシトンボ科、ミナミカワトンボ科、アオイトトンボ科、
カワトンボ科、ヤマトイトトンボ科 * 4 cm～6 cm

大型：カワトンボ科 * 6 cmより大

と、分類されます。

不均翅亜目の特長は①複眼が大きい②腹部が太い③後翅の方が前翅より大きい、です。

不均翅亜目には以下の10種類の仲間がいます。

ムカシトンボ科、ヤンマ科、サナエトンボ科、ムカシヤンマ科、オニヤンマ科、ミナミヤンマ科、ミナミヤマトンボ科、エゾトンボ科、ヤマトトンボ科、トンボ科

これらを大きさ別に分けると（ダブリアリ） 大きさの目安は上記と同じ

小型：サナエトンボ科、トンボ科、

中型：サナエトンボ科、トンボ科、ムカシトンボ科、ヤンマ科、エゾトンボ科、
サナエトンボ科、ミナミヤマトンボ科、

大型：オニヤンマ科、サナエトンボ科、ヤンマ科、ヤマトンボ科、ムカシヤンマ科、
ミナミヤンマ科、ヤマトンボ科、

と、分類されます。

このように分類すると、広義で考えると〇〇ヤンマという名前のつくトンボたちは大型のトンボとなります。狭義ではヤンマはキンヤンマなどヤンマ科に属するトンボを指します。

つまり、広義で考えるとトンボは均翅亜目と不均翅亜目を含めたすべてのトンボ目全体のことを指し、狭義ではトンボ目不均翅亜目トンボ科を指すことになります。

そうしますと、昨日の宮沢先生からの質問「トンボとヤンマの違い」の答えは

- ① トンボはトンボ目全体を指し、ヤンマは不均翅亜目の中で大型のもの
- ② トンボは不均翅亜目の中で小・中型のもので、ヤンマは大型のもの
- ③ トンボは不均翅亜目の中でトンボ科に属するものでヤンマはヤンマ科に属するもの
のいずれかとなりますが

ベストアンサーは、② トンボは不均翅亜目の中で小・中型のもので、ヤンマは大型のものが一般的かと思えます。

あいまいな大きさの違いによる区別以外、均翅亜目と不均翅亜目のような明確な違いはトンボとヤンマとの間にはないようです。

その他に、〇〇トンボとついているものがトンボ、〇〇ヤンマとついているものはヤンマです、とセンターの所員が冗談で言っていました。不均翅亜目の中でトンボとヤンマの明確な違いの規準ない以上、この説もありかなと思います。

以下は、蛇足です。

古代の日本ではトンボはアキツと呼ばれていました。日本のことを秋津島と呼んでいました。秋津島にとぶことでアキツになったといわれています。そのアキツがどのようにしてトンボと呼ばれるようになったかは諸説あります。ヤンマという呼び名は、日本の高い地形「山」や谷あいの地形「八ッ場（やんば）」によく飛んでいることが語源になっていてトンボのことをヤンマにというようになったという説もあります。つまり、トンボ全体をアキツやヤンマの両方の名で呼んでいたと思われませんが、いつのころからか、小型・中型のものをトンボ、大型のものをヤンマと区別するようになったという説があります。

いずれにしても、現在は腹部の細いトンボをイトトンボの仲間、小型・中型のトンボをトンボ、大型のトンボをヤンマと呼ぶようになったようです。